

2025年 第32週 (8月4日～8月10日) の感染症発生動向調査情報

<今週の内容>

- 1 百日咳について
- 2 管内の感染症発生状況 (百日咳以外のもの)
- 3 県内の感染症発生状況 (重症熱性血小板減少症候群、日本紅斑熱)
- 4 腸管出血性大腸菌による感染症・食中毒予防対策の徹底について

1 百日咳について

当所管内では今週百日咳の報告はなく (累積患者数 13 人)、県内では 109 人 (先週 107 人) の報告があり、今年の累積患者数は 2,696 人となりました。県内で今年発生した推定感染経路として、家族内感染が 1,476 人、学校内流行が 497 人報告されています。百日咳は主に患者の咳やくしゃみなどにより、しぶきに含まれる細菌を吸い込むことによって感染 (飛沫感染) し、7～10 日の潜伏期間を経て風邪症状がみられ、次第に咳の回数が増えて強くなります (約 2 週間)。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します (約 2～3 週間)。ワクチン未接種の乳幼児が感染すると、嘔吐や無呼吸を伴い、重篤化しやすいので注意が必要です。また、乳児期にワクチン接種を受けていても、終生免疫は得られないので、成長後に感染することがあります。予防として、咳エチケットなどの一般的な感染対策が有効となります。

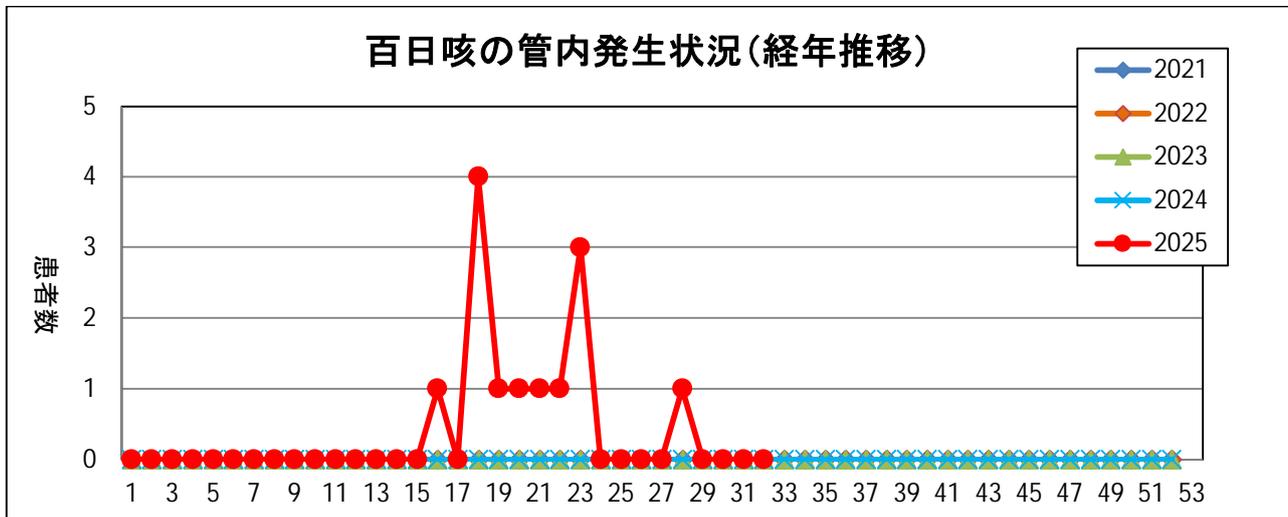
<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[兵庫県感染症情報センター](#)  
[百日咳について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[百日咳](#)  
[百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン \(第三版\)](#)



## 2 管内の感染症発生状況（百日咳以外のもの）

(1) 管内の全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症）

第32週は、報告はありませんでした。

(2) 定点把握感染症（指定された医療機関から報告を求める感染症）

（2025年32週）※定当：定点当たり患者数

インフルエンザ		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		COVID-19	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-	-	-	5	2.5	16	8	1	0.5	-	-	-	-	2	1	15	5

ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		感染性胃腸炎(ロタウイルス)		急性呼吸器感染症	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
5	2.5	-	-	...	...	...	...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	142	47.33

※2025年4月7日から急性呼吸器感染症が追加になりました。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

### ◆厚生労働省ホームページ

[急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#)

## 3 県内の感染症発生状況（重症熱性血小板減少症候群、日本紅斑熱）

県内では今週、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が2人、日本紅斑熱が1人報告されました。

これらは、主に病原体（ウイルスやリケッチア）を保有するマダニに咬まれることで感染します。

SFTSはSFTSウイルスを病原とし、主な症状は原因不明の発熱、嘔吐下痢などの消化器症状、血小板減少、白血球減少などが認められ、重症化すると死に至ることもあります。潜伏期間は6～14日で、治療薬はなく対症療法となっています。一方、日本紅斑熱はリケッチア・ジャポニカを病原とし、主な症状は発熱、発疹、挿し口が赤く腫れ中心部がかさぶたになるのが特徴です。潜伏期間は2～8日で、治療にはテトラサイクリン系の抗菌薬等が投与されます。

マダニの活動が活発となる春から秋にかけて、ハイキングや草むらに入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくする、虫よけスプレーを活用する、帰宅後すぐに入浴し着替えるなどの予防対策が必要です。また、山野へ入った2週間以内に発熱や発疹が出たときはすぐに受診し、その時の行動を伝えることが重要です。

<感染症に関する情報>

### ◆朝来健康福祉事務所ホームページ

[マダニに注意しましょう!!](#)

### ◆兵庫県ホームページ

[マダニに注意!ダニ媒介感染症について](#)

### ◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#)

[日本紅斑熱](#)

[つつが虫病](#)

#### 4 腸管出血性大腸菌による感染症・食中毒予防対策の徹底について

県内では今週、8人の腸管出血性大腸菌感染症の報告があり、県内の今年の累積患者数は53人となりました。（管内では今年の報告はありません。）

気温が上昇する夏場を迎え、腸管出血性大腸菌による感染症、食中毒の集団発生が危惧されます。とりわけ、抵抗力の弱い乳幼児や低学年の子ども、高齢者を受け入れる施設等については、感染症、食中毒予防対策がより重要となります。県民の皆さまには以下の点についてご注意ください。お願いします。

- (1) 学校や高齢者施設等において、職員及び児童、生徒あるいは入所者等に下痢、血便等の症状が見られたときは、早期に医療機関を受診するよう勧奨するとともに、同様の症状を有する者が複数確認された場合は、速やかに管轄の健康福祉事務所（保健所）へ報告してください。
- (2) トイレの後や食事の前には、石けんによる手洗いを励行してください。また、おむつなどの処理をした場合は、手指の洗浄と消毒を徹底してください。
- (3) 湧き水などの消毒処理がされていない生水は飲まないよう、また、肉類は中心部まで十分加熱処理して食べるようにしてください。
- (4) 施設等に設置されているプールの水質管理や、水遊び用プールについても水質等の衛生管理を徹底してください。
- (5) 動物（牛、鳥、カメなど）と触れ合ったり、その排泄物に触れた後は、石けんによる手洗いとともに、必要に応じて手指の消毒とうがいを励行してください。

##### <感染症に関する情報>

##### ◆兵庫県ホームページ

[腸管出血性大腸菌感染症について](#)

##### ◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[腸管出血性大腸菌感染症](#)